

あ  
ゆ  
の  
か  
ぜ

い  
た  
し  
く

あ  
ゆ  
は  
し  
る

見えないものに触れる時――

江藤 玲奈

大城 夏紀

本橋 大介

2020年8月29日(土)

～9月27日(日)

開場時間10:00～17:00(最終入場16:30)

会 場 ■ アートハウスおやべ(展示室1・2・3)

入場料 ■ 一般…500円(400円) 各種障がい者手帳をお持ちの方…250円 高校生以下無料

\* ( )内は20名以上の団体料金

◇ 会期中イベント 9月22日(火・祝) 15:00～ 音楽会 演奏:アンサンブル30

主催/アートハウスおやべ[(公財)クロスランドおやべ]

後援/小矢部市教育委員会、小矢部市芸術文化連盟、北日本新聞社、富山新聞社

読売新聞北陸支社、北陸中日新聞、朝日新聞富山総局

北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、富山エフエム放送、エフエムとなみ

※新型コロナウイルス感染症対策に伴い予告なく会期の変更または中止が見込まれます。

来館の際に当館ホームページなどの情報をご確認ください。



アートハウス おやべ

〒932-0821 富山県小矢部市鷺島10 クロスランドおやべ内  
TEL 0766-53-5344 FAX 0766-53-5844 <http://www.art-oyabe.jp>

この度、アートハウスおやべでは開館5周年を記念して、「あゆのかぜいたしくあゆはしる—見えないものに触れる時」を開催します。本展では「差違とずれ」、「照応と変換」をキーワードに、今、国内で注目されている3名の若手作家の作品を紹介します。

〔展示コンセプト〕

万葉歌人大伴家持が越中富山に赴任した時に詠んだ歌で、「東（あゆ）の風いたしく吹けば」とか「鮎走る夏の盛りと鳥つ鳥」のように「あゆ」を含んだ歌がいくつかあります。

そこでは都への望郷の思いと異郷富山への愛着との相反する二つの気持ちが交錯しています。同じように、「あゆ」はそれぞれ異なる「東」と「鮎」を指していますが、同時に、異なる「東」と「鮎」が一つの「あゆ」で交錯しています。

家持の「あゆ」と同じように、絵画に描かれた色と形も、いくつかの異なるイメージを連想させることはないでしょうか。

一つの色と形が見る者の眼差しのなかですれて、差異化され、複数の色と形になって、照応しあい、変換しあうとき、それまで見えなかったイメージが手に触れるように現れ、もう一つのリアルな世界を垣間みさせます。逆に複数の色と形が一つに重なることもあります。

ここに展示された作品は、こうしてわたしたちを想像力の異郷へと赴かせてくれるのです。

\*「あゆのかぜ」は「あいのかぜ」とも言われ、「東の風」を意味する富山地方の方言です。



■交通のご案内

- あいの風とやま鉄道 石動駅(南口)から 車で 約4分(2km)
- 北陸自動車道 小矢部ICから 車で 約10分(5km)
- 能越自動車道 小矢部東ICから 車で 約7分(4km)
- 北陸新幹線 新高岡駅から 車で 約30分(17km)

**アートハウス おやべ**

〒932-0821 富山県小矢部市鷺島10 クロスランドおやべ内  
TEL 0766-53-5344 FAX 0766-53-5844 <http://www.art-oyabe.jp>

**江藤 玲奈** えとう・れいな

墨を画面にランダムに落として無数の点を作り、星座を描くように、生き物を描きだしました。その生き物から「物語」を紡ぎ出し、「物語」と「描く行為」は相互作用を起こしながら、一つの作品を生み出していきます。この「物語シリーズ」に加えて、その派生で生まれたストッキングなどを用いて作られた半立体作品と、針金を用いた「動き」のシリーズも展示します。

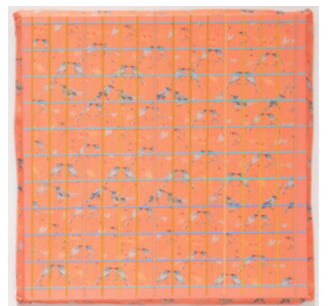


江藤 玲奈「hide-and-seek (猫の目が光るわけ)」(2020)

- 1989年 富山県生まれ
- 2011年 富山大学芸術文化学部造形芸術コース卒業
- 2013年 富山大学大学院芸術文化科学研究科修士課程修了
- 2016年 「新進芸術家選抜展FSUSS2016」 O美術館(東京)
- 2017年 「江藤玲奈展 回遊す光-命の輝き-」 ガレリア青猫にて個展(東京)
- 2018年 「コレクター推薦作家展シリーズVol.2 関一彦・推薦作家」東京九段耀画廊(東京)
- 2019年 「REINA ETO&SARA WATANABE」 コートヤードHIROO(東京)
- 2020年 「asterism」 帝国ホテルプラザMEDELGALLERYSHUにて個展(東京)
- 2020年 「江藤玲奈展-Dot to Dot-」 ギャラリー・フェイストゥフェイスにて個展(東京)

**大城 夏紀** おおしろ・なつき

ヴェルサイユ庭園の風景を骨組み(配置)や記号に「変換」し、それがさらに布や立体物に「変換」され、重なって「ずれ」ていくことで、元の風景に潜む見えない記憶が見えてきます。今回は展示会のタイトルにも使われた大伴家持の和歌から、家持の視点をきっかけに構成するペインティング作品と、歴史・文化における象徴的なアイコンを装飾模様として取り入れたシリーズで構成します。



大城 夏紀「子規庵・庭」(2019)

- 1985年 東京都生まれ、横浜市在住
- 早稲田大学第二文学部卒業後、阿佐ヶ谷美術専門学校を経て、東京造形大学大学院造形研究科修了(2012年)
- 2011年 第26回ホルベイン・スカラシップ奨学生認定
- 2016・18年 ART TRACE Gallery(東京都)にて個展
- 2018年 シェル美術賞レジデンス支援プログラム2018(Cite international des arts・パリ)
- 2019年 「シェル美術賞2019 レジデンス支援プログラム2018 レジデント展示」国立新美術館(東京都)

**本橋 大介** もとはし・だいすけ

木の特性を生かした木版画ならではの要素として、版木と摺られた和紙両方を展示しています。版画の版と画が左右に並置されて「照応」することで、画が成立する見えないしくみやプロセスが手で触れるように見えてきます。摺った後の版木は研磨や裁断など版が壊されるので、通常の版画のように複数摺ることができないためモノタイプ(ただ一つ)の画となります。



本橋 大介「家」(2019)

- 1976年 茨城県生まれ
- 2001年 東京藝術大学美術学部絵画科 油画専攻卒業
- 2003年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了
- 2005年 中国政府国費留学中央美術学院伝統木版画研究室進修生修了
- 〔個展〕
- 2019年 藍画廊(東京/銀座)
- 2016年 ギャラリーCajio(東京/武蔵小金井)
- 2013年 藍画廊(東京/銀座)
- 2012年 新世代への視点2012 藍画廊(東京/銀座)

◇音楽会

日 時：9月22日(火・祝) 15:00～  
演 奏：アンサンブル30

16-18世紀の音楽を古楽器を用いて演奏する古楽アンサンブルユニット。2004年4月結成。